

<目次>

粉乳情報	引き続き上昇する脱脂粉乳相場	… 2-3 頁
バター情報	欧州産 引き続き堅調	… 3-4 頁
カゼイン情報	欧州増産、相場軟調に	… 5 頁
チーズ情報	EU・メキシコ自由貿易協定(FTA)による関税撤廃	… 5-6 頁
ホエイ情報	米国産、欧州産ともに相場上昇	… 7 頁
乳糖情報	米国産、欧州産共に上昇-	… 7-8 頁
国内情報	Jミルク、2018 年度生乳生産量は全国で 0.3%減と予想	… 8-10 頁
主要生産国の現行乳価		… 10 頁
オセアニア情報	Saputo Dairy Australia 社始動	… 11-13 頁
米国駐在員情報	生乳生産量及び在庫数量	… 13-16 頁
欧州駐在員情報	EU 政府 脱脂粉乳介入在庫売り渡し・買い入れ状況	… 13-16 頁
出典		… 17 頁

<粉乳情報>

- 引き続き上昇する脱脂粉乳相場 -

- 欧州 -

欧州産脱脂粉乳相場は先月比較、上昇気味である。閑乳期に入ったオセアニア産に比べ、価格も競争力があり、欧州産への引き合いが増えているからだ。フレッシュ品(新規製造品)に関して言えば、期近積みで売り切れとなっているサプライヤーもいるようである。5月15日に行われた政府介入在庫の放出入札は4万1,958トンもの脱脂粉乳が落札され、最低落札価格はEUR1,155/トン。先月に比べて、1万7,892トン増加した。これで2018年に入り、合計で7万6,053トンもの脱脂粉乳が落札された。但し、まだ約30万トンが在庫として残っている。

欧州産全粉乳相場はオセアニア産より価格が高いものの、主にEU域内の需要家による引き合いが好調である。製造する側からしてみると、全粉乳より利益率の高いクリーム、バター等の乳脂肪製品を作る方に注力したいため、欧州サプライヤーは輸向けにはあまり積極的にはなれないものと思われる。

- オセアニア -

オセアニア産脱脂粉乳相場は先月から引き続き上昇している。閑乳期となった今、各サプライヤーからの供給が限られているものの、引き合いは好調な模様。

オセアニア産全粉乳相場は先月比較、横ばい。2017/18年シーズンについては特にニュージーランド(NZ)の天候不順や中国からの強い引き合いにより供給面に不安要素もあったが、多少の上下は見られるものの、GDTから読み取れる今年に入ってから相場は比較的安定していると言える。但し、第3～第4四半期の船積みについては、オセアニアの新シーズン開始直後となることから、未だ生乳生産量も不透明であり、価格動向には注意したい。今シーズンも終了しつつあり、NZ製造者の殆どは限られた乳量の中で既契約分の全粉乳製造に注力している模様。

最新のGDTの結果は下記の通り。脱脂粉乳については先月から引き続き上昇。

GDT 結果(2018年5月15日開催、同年5月1日比較)

脱脂粉乳 : USD 2,047/mt FAS(船側渡し価格)、+2.4%

全粉乳 : USD 3,226/mt FAS(船側渡し価格)、-0.2%

- 米国 -

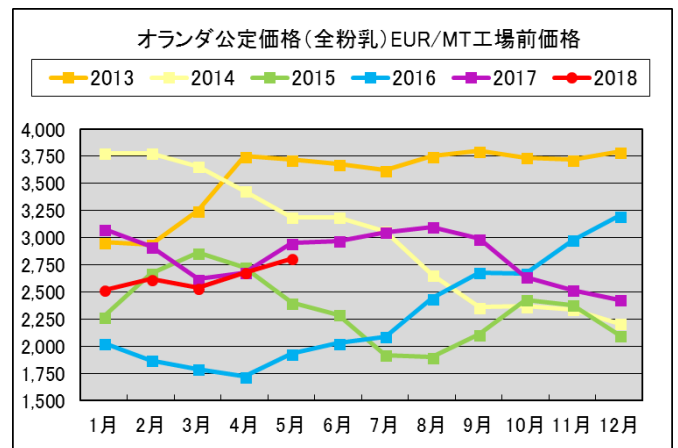
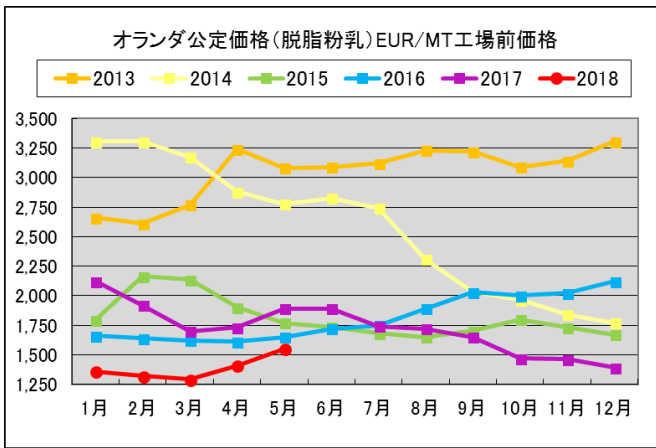
米国のNDM(注)は価格競争力が有ったが、2018年5月については需要増加もあって、若干ではあるが値上がりした。生乳生産量についても引き続き好調に推移しているものの、前年同月比、0.6%増と成長率は鈍化しており、天候要因等で生乳生産量が落ち込むようなことがあれば、今後NDM相場が更に上昇する可能性もあるのではないかと考える。

注 NDM : Non-Fat Dry Milk (たんぱく非調整脱脂粉乳)

- 今後の展望 -

今後の脱脂粉乳相場については、引き続き上昇していくものと予想する。これまで相場低調の主要な原因であった欧州の政府介入在庫は製造後2年超の玉ものが増えつつあり、需要家の間ではもはや完全に別物と捉えられている。また、欧州諸国において乳業メーカーは酪農家への支払い乳価を下げている、酪農家の生産意欲低下により生乳生産量が落ち込み始めている国もあり、今後の生乳生産量の動向次第では更なる価格上昇に繋がる可能性がある。

全粉乳については主要輸出国であるNZの2018年3月の輸出量が11万4,000トンと前年同月比、10%増となっており、好調である。中東やアフリカからの引き合いが強かった一方、中国の輸入量に関しては前年同月比、17%減と2018年3月については低調であった。この低調な動きは一時的なものと考えられるが、今後輸入量が回復するようであれば、供給がタイトになる可能性があり、引き続き中国の動きには注意しつつ、早めの調達が発明であると考えられる。



(現在の粉乳取引価格)

欧州産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 2,000 – 2,250 /MT CFR ASIAN PORT
欧州産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,550 – 3,850 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 2,000 – 2,300 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,550 – 3,750 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 2,000 – 2,350 /MT CFR ASIAN PORT

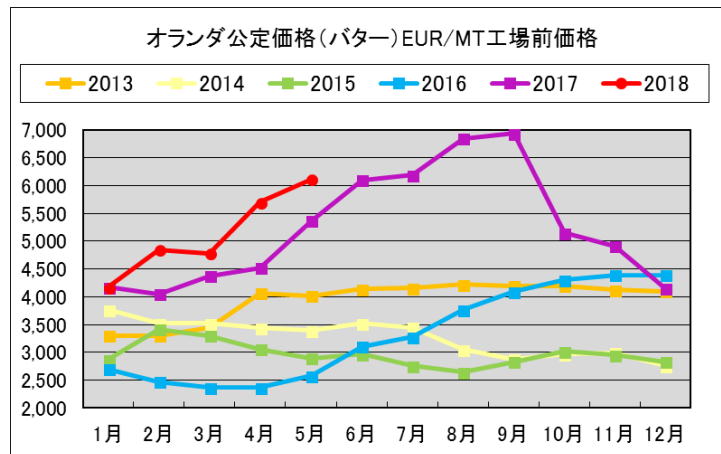
<鷹井>

<バター情報>

- 欧州産 引き続き堅調 -

- 欧州 -

欧州の乳脂肪相場は前月から引き続き堅調に推移している。春を迎え、生乳生産が増加する時期ではあるものの、域内、国際市場からの需要がともに強く、バター在庫がなかなか積みあがらない状況が続いている。2018年1~3月のバター生産量は昨年同時期比、2.6%増加しているが、同時期の輸出量は昨年比較、13%増加しており、国際市場からの引き合いが強い事がうかがえる。現在、オセアニア産や米国産バター価格と比較すると、欧州産バターのほうが約20~25%程度高値で推移しており、大きく差が開いている。しかし、域内需要は底固く、価格は堅調である。夏場の冷蔵用途やクリスマスなど、今後強い引き合いが予想される場面が続くそうなので、生乳生産のピーク時期にバター在庫の積み増しが上手くいかなかった場合は、需給の不均衡から、価格は良くても現状維持、場合によっては高値推移となる可能性が考えられる。



- オセアニア -

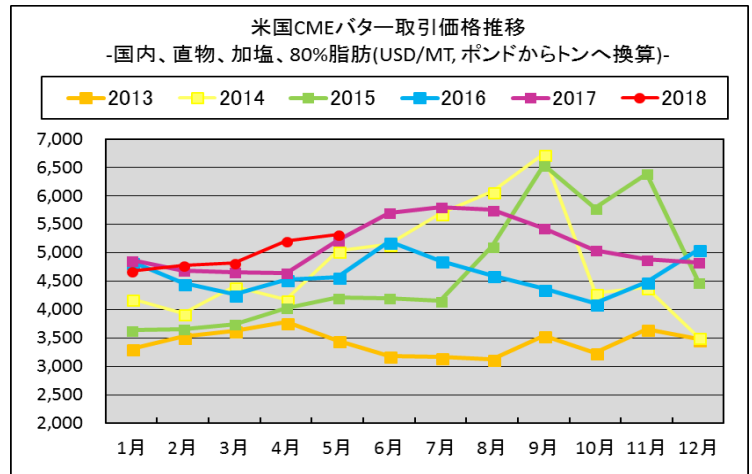
5月に行われたGDTオークションの結果はバター、AMFともに値上げとなっている。5月1日に行われたGDTオークションのバター平均落札価格はUSD5,647/MT FAS(船側渡し)となり、前回(2018年4月17日)比0.1%値下げとなったが、5月15日に行われたGDTオークションでのバター平均落札価格はUSD5,787/MT FAS(船側渡し)まで上昇した。AMFも同様に、5月1日のオークションでは平均落札価格がUSD6,032/MT FAS(船側渡し)と前回(2018年4月17日)比1.4%の値下げとなったが、5月15日に行われたGDTオークションでの平均落札価格はUSD6,354/MT FAS(船側渡し)まで上昇した。

2018年1~3月のニュージーランド産バター輸出量は、昨年同時期比、1.3%の増加となっている。ニュージーランド産バターの主たる需要者は中国である。中国のバター輸入量は2018年1~3月で昨年同時期比、32.3%増加しており、その92%がニュージーランド産との事。

- 米国 -

米国の乳脂肪相場も堅調に推移しているものの、欧州産バターと比較すると依然、価格に競争力がある。

米国では、例年3月から4月にかけてバター在庫が積みあがる傾向にあり、4月末時点では昨年同月比、5.2%の増加となった。しかし国内でのバター需要は根強く、他産地同様に価格は堅調を維持する可能性が高いと考える。



2018年4月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.22)

EU産バター価格	USD7,800~USD8,300/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD6,000~USD6,500/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD6,000~USD6,500/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩82%脂肪)価格	USD6,300~USD6,800/MT CFR ASIAN PORTS

<林>

<カゼイン情報>

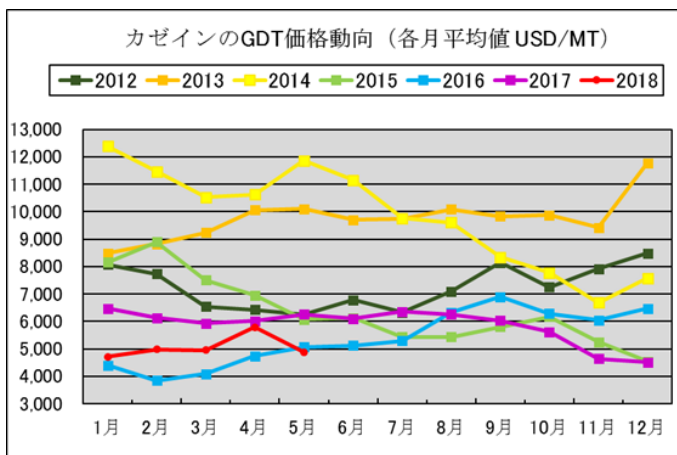
- 欧州増産、相場軟調に -

カゼイン相場は5月に入り軟調に転じた。

主要産地であるニュージーランド(NZ)では乾乳期を迎え、カゼインの生産量も減少している。一方で、搾乳シーズンに入った欧州の第1四半期生乳生産量は昨年比 3.8%増加、カゼイン生産も順調で供給は安定している。

需要面では、主要ユーザーが先行して期近の契約を終えており、取引は落ち着きを見せている。結果として、供給が需要を上回り相場は下げ基調へと転換した。

今後については、現状、EU では“古物(ひねもの)”の介入在庫を嫌って、食用向けにフレッシュな(新規製造品)脱脂粉乳の需要が伸びており、価格は上昇気味となっている。賞味期限の新しい脱脂粉乳を求める需要家が増えるとカゼイン生産は減少、再び値上がりすることと思われる。NZについても、季節要因により生産量も見込めないため、相場が下がり続けることは考えづらい。



- レンネットカゼインの GDT 過去3カ月の落札価格 -

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年3月6日	USD5,128
2018年3月20日	USD4,948
2018年4月3日	USD5,668
2018年4月17日	USD5,792
2018年5月1日	USD5,177
2018年5月15日	USD4,876

<渡辺>

<チーズ情報>

- EU・メキシコ自由貿易協定(FTA)による関税撤廃 -

1997年に発効されたEU・メキシコ間の自由貿易協定(FTA)が見直される事となり、4月21日に大筋合意に達した。今回の新たな合意では農作物、サービス、雇用や環境基準に関する改定が盛り込まれているが、その中に乳製品も含まれており、EUからメキシコへ輸出されるチーズの関税(種類別で最大20~45%)が発効後7年以内に撤廃される事が報じられている。下記の通り関税撤廃もしくは関税割当が設定される模様。

- ・ブルーチーズ(現行関税最大20%)⇒ 発効後7年以内に関税撤廃
- ・フレッシュチーズ及びプロセスチーズ(最大45%)⇒ 発効後5年以内に枠内無税(年間5,000トン)
- ・その他の熟成タイプのチーズ(最大45%) ⇒ 発効後5年以内に枠内無税(年間20,000トン)

また、脱脂粉乳(現行関税 50%)には初年度 30,000 トン、5 年後までに 50,000 トンの関税割当を設けるとしてあり、EUの余剰在庫が減少する事で欧州におけるバターを増産すなわちチーズ減産の一因となる事も考えられる。また、米国からメキシコへは北米自由協定(NAFTA)により無税で約9万トンのチーズ及び約25万トンの脱脂粉乳が輸出されており、EU・メキシコ FTA による米国相場への今後の影響が注目される。

-パルミジャーノレジャーノ 2017 年の輸出・生産量-

パルミジャーノレジャーノ協会によると、2017 年のパルミジャーノレジャーノの生産量は2016 年比5.2%増で史上最多となる約 14 万 7,000 トン(約 365 万玉)であった。およそ 35%に相当する 5 万 1,900 トンが輸出されており、輸出量の多い順にフランス、ドイツ、米国、UK、次いでカナダとなっている。同協会によると 2018 年の生産量は 370 万玉を上回る見込み。

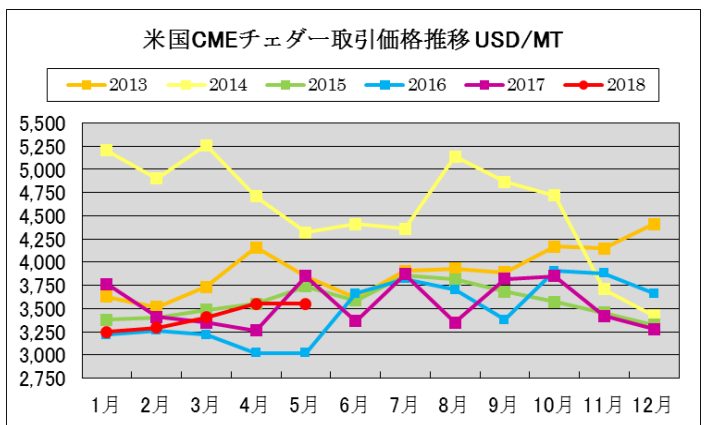
- 2018 年下半期 欧州産チーズ相場の動向-

既報の通り、2 月の大寒波の影響で春の到来が遅れており EU 域内の生乳生産量増加の勢いが削がれている。

現地乳業メーカーやトレーダー等の情報では域内需要は依然として堅調で、域外からは原油価格高騰により中東及び北アフリカの購買力が上がっている模様。また、5 月中旬から 6 月中旬にかけてのラマダン前の買い溜めの影響に加えて中国の乳製品需要も回復し始めていると思われ、世界的に EU 産チーズの引き合いが増加している模様。いずれにしても今後の相場は EU の生乳生産量に大きく左右される事となり、乳価の動向と天候の安定が重要な要素となってくる。一方、6~8 月にかけて例年よりも気温が高くなる可能性があると予想されており、熱波による影響も懸念される。

-米国 CME 相場-

2018 年 5 月の CME スポット相場は、2 週目に最高値となる USD3,750/MT(現地工場出し価格)を記録したが、その後落ち着き 5 月 25 日時点で USD3,550/MT と前月と同水準に留まった。5 月に 2 回開催された GDT オークションのチェダーの平均落札価格はいずれも前回比 4.4%増と上昇しており、CME 先物相場においても全体的に上昇基調が続いている。好調な輸出に加え、国内需要も季節的に高まっていることにより期近の相場が上昇しており、先物価格においても上昇する見方がより強まっている。



<近藤>

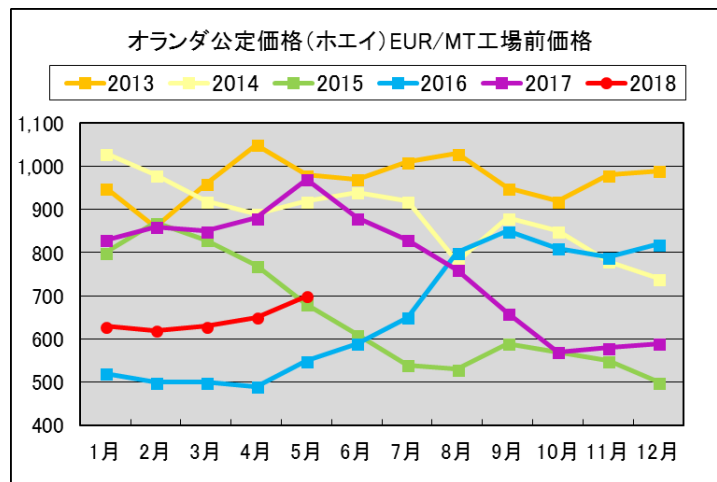
<ホエイ情報>

-米国産、欧州産ともに相場上昇-

米国産ホエイパウダー相場は上昇している。これまでは中国や東南アジアを中心とした米国外からの根強い需要が相場を押し上げる要因となっていたが、5月に入り相場上昇を懸念し米国内の引き合いが強くなってきている。米国産ホエイパウダーの生産量は安定しているものの、強い需要に押され、生産者側の在庫は薄くなっている。既契約分の供給に追われ、スポットオファーの提示を渋る生産者も出てきたようだ。第3四半期の契約が活発に行われている様子もあるため、期近での船積み分は早めの契約を心がけたい。

欧州産ホエイパウダー相場も前月に続き上昇傾向。米国産ホエイパウダーの相場上昇に牽引される形で、欧州でも相場が上昇している。ホエイパウダーの生産は安定的に推移しており、短期的には供給面の心配はない模様。ただし、堅調な需要によって相場以上に価格が上昇している銘柄もあるため、調達時期には注意が必要。

米国産 WPC-34 の相場も上昇傾向で推移。育児粉乳向けを中心に WPC-34 の引き合いは強く、多くのサプライヤーで在庫も薄くなっている。3月末時点での WPC(タンパク含有量 25%~49.9%)の在庫量は前年同月比 2.3%減の 1万 478 トン。サプライヤーの中にはスポット向けの取引は、相場よりも高値でオファーを提示しているものもある。



<今野>

<乳糖情報>

-米国産、欧州産共に上昇-

- 欧州 -

欧州産乳糖相場は緩やかながら上昇している。欧州の生乳生産はピークを迎える時期であるが、天候不順の影響から予想よりも伸び悩んだ。一方、チーズ需要は国内外問わず強く、また生産量も増加している。よってホエイと乳糖の供給も、安定している。需要面では、脱脂粉乳の生産が好調で、たんぱく調整用途での乳糖需要が強まった。その結果、緩やかに相場は上昇した。

今後の乳糖相場については、需要面では、脱脂粉乳の需要が高まっていることから、今後もたんぱく調整用途での乳糖需要が強まっていく可能性が高いと考えられる。しかしながら供給面では引き続きチーズの生産が好調なことが見込まれるものの、生乳生産ピークを過ぎたことから、乳糖の大幅生産増は考えにくい。よって欧州産乳糖相場は、緩やかに上昇していくと予想する。

国別乳糖輸入量:	1~4月累計(単位/トン)		
	2017	2018	(%)
オランダ	2,889	1,748	-39
フランス	543	303	-44
ドイツ	5,355	4,247	-21
カナダ	1,014	1,203	19
米国	15,397	14,092	-8
豪州	0	0	-
ニュージーランド	1,052	1010	-4
その他	635	529	-17
合計	26,885	23,130	-14

- 米国 -

米国産乳糖相場は、上昇している。好調な生乳生産とチーズ生産が追い風となり、ホエイ・乳糖の生産も順調。供給は変わらずに安定している。4月の生乳生産量は昨年対比0.7%増、3月のチーズ生産量は昨年対比2.7%増、乳糖生産量は3.7%増となった。また需要面では、中国向けなどの育児粉乳用途での引き合いがかなり強まった。在庫状況は、2017年Q4から2018年Q2にかけてユーザーによる積極的な購買に起因し、非常にタイトになってきている印象。中には既契約分の船積みが遅れているメーカーも見られる。

今後、供給面では、生乳生産は好調を維持すると見込まれるものの、WPCやWPIといった高たんぱく製品の生産量、低調な相場の影響により落ち込んでいることから乳糖の生産にも陰りが見られる可能性がある。需要面について、一部では現在の安定している乳糖需要が、このまま続いていくのか疑問視する見方もあるが、秋冬の製菓向け需要も強まっていくことが予想される。そのため、米国産乳糖相場については、上昇していくものと予測する。

- 米国からの乳糖輸出量(2018年1～3月累計) -

1. 中国	25,011	トン
2. メキシコ	11,596	トン
3. ニュージーランド	10,983	トン
4. 日本	10,825	トン
5. インド	6,686	トン
6. インドネシア	4,457	トン
7. 韓国	4,126	トン
輸出量総計	102,290	トン

- 米国の乳糖生産量と在庫量(2018年3月) -

乳糖生産量	44,860トン	前年比3.7%増
月末在庫	52,072トン	前年比7.8%減

<柴崎>

<国内情報>

- Jミルク、2018年度生乳生産量は全国で0.3%減と予想 -

- 生乳生産 -

農林水産省が発表した2018年4月の全国生乳生産量は62万3,768トン。前年同月比1.2%増となり7ヶ月連続で前年を上回った。地域別では北海道が32万8,663トンで同比2.5%の増である一方、都府県は29万5,105トンで同比0.3%の減少となった。

都府県の生乳生産量減少の影響で、北海道の道外移出量が増加している。牛乳の健康効果を紹介する番組がテレビ放送されたことに加え、好天が概ね続いており飲用消費を押し上げていることから、ホクレンの道外移出生乳には多くの追加注文が入っており、生乳需給は逼迫している。一部関係者よりはテレビ効果がいつまで続くかわからず、急に飲用乳のブームが去ると逆に生乳が余ることになるため、生産計画が立てづらいとの声が出ている。

Jミルクが5月25日に発表した需給見通しでは、全国生乳生産量は726万7,000トンで前年比0.3%減と発表。内訳として、北海道で398万トン、前年比1.6%増、都府県は328万7,000トンで前年比2.6%減となっている。

- バター -

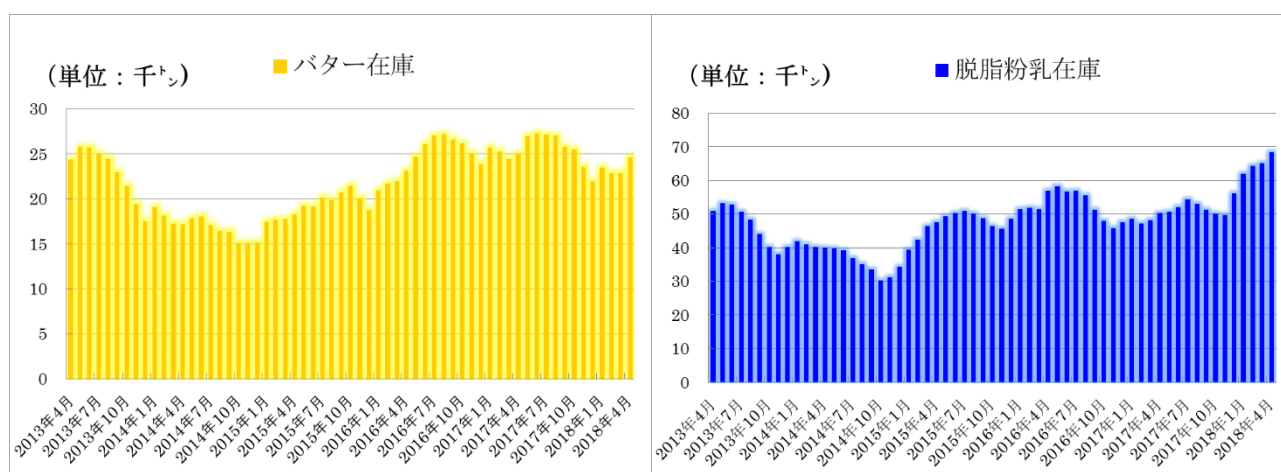
農林水産省が発表した 2018 年 4 月のバター生産量は、5,986 トンで前年同月比 4.7%増、在庫量は 2 万 4,611 トンで同比 1.7%減となっている。ALIC(農畜産業振興機構)が 5 月 17 日実施した 2018 年度輸入枠のバター入札(SBS 方式、1,500 トン)は、輸入業務委託に 3 者 423.1 トン(全量バラ)が応札。このうち 373.9 トンが落札され、落札率は 25%。輸入業務委託の落札平均価格は ¥1,053.480/kg、売渡入札の落札平均価格は ¥1,065.583/kg であった。在庫量は着実に減ってきており、玉の手当をする必要がある需要家が徐々に増え、応札数量が増加 する可能性があることから、次回 6 月 14 日入札(1,000 トン)、7 月 12 日入札(1,000 トン)に注目していきたい。

J ミルクが 5 月 25 日に発表した需給見通しによると、2018 年度のバター生産量は 6 万トン、前年比 99.8%となる見込みであり、生産量は減少すると見ている。

- 脱脂粉乳 -

農林水産省が発表した 2018 年 4 月の脱脂粉乳生産量は、1 万 1,666 トンで前年同月比 0.3%減、在庫量は 68,319 トンで同比 35.5%と先月に続き大幅増となっている。6 月 21 日には脱脂粉乳入札(4,000 トン)があるため、引き続き高い在庫水準で推移する見込み。5 月 25 日、農水省牛乳乳製品課担当者が今年度の乳製品輸入枠(脱脂粉乳 2 万 7,000 トン、バター 1 万 3,000 トン)について当初設定した輸入枠から変更はない、と発表した。

同省は国家貿易の乳製品輸入枠(4 月～翌年 3 月)について、1 月に次年度年間輸入枠を設定し、5 月と 9 月に需給状況や過去の推移、年間見通しなどを踏まえた検証を行うこととしている。今回、検証結果について、脱脂粉乳は各月末の必要在庫量(実需者の希望最大数量 6 万トン)、バターも各月末の必要在庫水準(翌月の 最大消費量の 2.5 倍)を満たしており、輸入枠の変更はしないと説明した。



生乳生産量(2018(平成 30)年 4 月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
平成 30 年度	624	324	27	295	4.1
前年同月比	101.2%	99.1%	103.1%	103.6%	101.0%

2018(平成 30)年度、バターの需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	17,086	101.9%	19,264	123.4%	26,500	97.0%	4.1
第 2 四半期	12,900	102.4%	14,300	93.1%	28,300	104.6%	4.4
第 3 四半期	12,400	92.2%	20,600	75.8%	23,300	106.2%	3.6
第 4 四半期	17,200	99.6%	17,500	92.4%	26,200	102.8%	4.1
合計	59,586	99.2%	71,664	93.0%	26,200	102.8%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成30)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,966	101.0%	24,082	65.7%	66,900	124.6%	5.4
第2四半期	25,800	102.1%	41,900	116.8%	58,700	110.6%	4.7
第3四半期	27,900	92.2%	36,900	120.0%	57,600	102.7%	4.6
第4四半期	33,300	99.7%	35,400	78.0%	63,400	126.5%	5.1
合計	119,966	98.7%	138,282	93.0%	63,400	126.5%	5.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<高野>

<主要生産国の現行乳価>

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥97.47/㍓	2018年3月	¥94.54/kg※2
ドイツ	¥44.79/㍓	2018年3月	EUR34.21/100kg
オランダ	¥46.48/㍓	2018年3月	EUR35.50/100kg
アイルランド	¥45.74/㍓	2018年1月	EUR34.93/100kg
米国	¥38.65/㍓	2018年3月	USD15.60/100ポンド(100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥36.01/㍓	2017/18年度	AUD5.68/kg MS(乳固形kgあたり)
NZ	¥38.49/㍓	2017/18年度	NZD6.55/kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥127.00 USD=¥109.00 AUD=¥82.00 NZD=¥76.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 EU:European Commission 米国:CLAL 豪州:Murray Goulburn HP NZ:Fonterra HP

<オセアニア情報>

- Saputo Dairy Australia 社始動 -

豪州最大の酪農協乳業会社であった MGC 社の事業及び製造設備を含めた全ての資産売却がカナダ乳業会社 Saputo 社に対して完了し、5 月 1 日より Saputo Dairy Australia 社として始動を始めた。これにより元 MGC 社 CEO の Ari Mervis 氏、CFO の David Mallinson 氏、及び数名の幹部が辞任。また輸出向け商売の責任者であった執行役員の Mike Walsh 氏も Saputo Dairy Australia 社には残らない決断をした。Saputo 本社の COO を務める Kai Bockmann 氏が、Saputo 社豪州部門(Saputo Dairy Australia 社及び WCB 社のオペレーション)を管轄し、Richard Wallece 氏が豪州責任者という形になると思われる。人事については他にも順次発表になってくるものと思われる。

Saputo 社は豪州に Saputo Dairy Australia 社と WCB 社の二つの乳業会社を保有する事になる。

Saputo Dairy Australia 社(元 MGC 社)は、2015/16 年シーズンに年間 350 万トンあった集乳量が、現在は半分以下の 160 万トン程度まで落ち込んでいると言われている。昨年同社の 3 工場は閉鎖し、残っている工場の稼働率も 50%を下回る状況であり、Saputo Dairy Australia 社の直近の最大課題は集乳量の回復になる。集乳量回復に必要なのは酪農家への十分な乳価の提示であり、その為には会社としての業績を伸ばす為に利益を最大化する事が必要になってくる。今後は限られた生乳で、稼働率の低くなっている工場の効率を最大限に上げて、利益率の高い製造品目への製造に注力していく必要がある。また乳価獲得競争の中で、単純に高い乳価を提示する競争を行うだけでは今までの過ちを繰り返す事になりかねない為、今後は酪農家との強い信頼関係を再構築する事が求められる。Saputo 社は、元 MGC 社と WCB 社の商売形態、商流、担当窓口などは、なるべく現状のままに維持し、今回の買収による影響を最小限に留めたい事を明言している。しかしながら、Saputo 社、MGC 社、WCB 社の大手乳業会社が一つのグループ企業となる為、中長期的に多少の変更は行われていくと予想される。

一方、Saputo Dairy Australia 社が成立する条件として ACCC(豪州公正取引委員会)と合意した Koroit 工場売却の候補に関しては、未だ推測の域を出ないものの、いくつかの乳業会社の名前が取り沙汰されている。当地報道では、Bega 社、Parmalat 社、Burra 社、Lion 社などの名前があがっており、買収金額に関しては 2 億～2 億 5 千万豪ドル(168 億～210 億円)と予想されている。Saputo 社としては売却金額もさることながら、日々激化する生乳獲得競争に悪影響を及ぼさない相手選びという部分もポイントになってくると思われる。豪州の全体の集乳量が減少している中、加工乳業工場が多すぎるのが現在の豪州乳業界の根本的な問題であり、上述の通り Saputo Dairy Australia 社は集乳量を大幅に回復させる必要がある一方、Fonterra 社新チーズ工場でも生乳が必要であり、また好調な Bega(Tatura)社も製造設備の増強を予定している。また新興の粉乳工場などもいくつか稼働しており、生乳獲得競争は激しさを増すばかりである。Saputo 社としては、海外企業に Koroit 工場を売却して生乳確保の場を荒らされるよりは、ある程度豪州での歴史が長く、地場に根付いた乳業会社を選択するという見方も業界では強い。Koroit 工場売却に関する詳細は不明であり、6 月中には候補会社の名前が絞り込まれてくるのではないかと期待されており注目が集まる。

- 豪州乳価上昇 -

5 月 11 日 Saputo 社が今シーズン(2017 年 7 月～18 年 6 月)の乳価を AUD5.60/kg(35.51 円)乳固形から AUD5.68/kg(36.01 円)乳固形へ値上げした。これは Saputo Dairy Australia 社(元 MGC 社)、及び WCB 社の全ての契約酪農家に対して同じ条件での値上げとなっている。2017 年 7 月 1 日からの今までの供給生乳に対して、遡っての精算する従来通りのステップアップとなっている。その他乳業会社に関しては今シーズンの最終乳価を未だ発表していないものの、Fonterra 社、Bega 社の最終予想乳価は AUD5.90/kg(37.41 円)乳固形レベルとしているので、シーズン終了後の最終乳価では間違いなく AUD5.90/kg 乳固形以上の乳価を提示して今シーズンの精算を行うと予想される。Saputo 社に対しても、それに対して更に値上げする可能性もあると思われる。

一方、来シーズン(2018 年 7 月～19 年 6 月)の乳価については、MGC 社が業界のリーダーとして新シーズン乳価を誰よりも早く発表し、競合他社はそれをベンチマークに各乳価を決定していたのは遠い昔となり、今回

最初にアナウンスを行ったのは Bega 社であった。3月23日、Bega 社は現行乳価(AUD5.63/kg 乳固形(35.70 円))を新年度の第1四半期(2018年9月末)まで支払う事を供給酪農家へ通知した。10月以降の乳価に関しては9月までに発表するとしている。また同社はサプライヤー即ち酪農家が3年間の生乳供給契約に合意した場合は、AUD0.50/kg(3.17 円)乳固形、2年契約の場合は AUD0.25/kg(1.59 円)乳固形の一時金を支払の提示もしている。現状の酪農家には魅力的であり、新しい酪農家を獲得する上でも積極的な提案となっている。この乳価が一つのベンチマークとなり、その後各社が乳価提示を順次行っている。4月11日、Burra 社は競合他社の乳価レベルから頭一つ抜ける AUD5.70/kg(36.14 円)乳固形に上げる事を発表した。3年契約をした場合は、追加にて AUD0.40/kg(2.54 円)乳固形の乳価を支払う事を約束している。Parmalat(Lactalis)社に関しては、最終乳価予想を AUD5.35~5.60/kg(33.92~35.51 円)乳固形とした上で、二年間の契約の中で下限価格 AUD5.00/kg 乳価を保証した上で、毎年 AUD0.40/kg 乳固形の契約履行インセンティブを支払う事を約束している。またシーズン初月が経過した8月にAUD0.20/kg(1.27 円)乳固形を上乘せして支払う事で、酪農家のシーズン初めのキャッシュフローに貢献する事も約束している。そして、現在豪州乳業会社の最大の集乳量を誇る Fonterra 社は4月18日に、一部の乳価を入札にて決定する事で発表した。酪農家に対して、7月1日から始まるシーズンの一酪農家の供給量の最大70%までの乳価を入札で決める事を発表した。入札は4月30日までに締め切り、結果は約5万トンの生乳に対して、AUD5.90/kg(37.41 円)乳固形にて価格を固定した事を発表した。

各社集乳量を増やしたい思惑があり、酪農家になるべく安心してもらえる乳価提示を行っている。酪農家としては長期で乳価が確定する方がリスクは低く、経営計画を作成しやすく、乳業会社からすればなるべく長期で酪農家と供給契約したいので、長期インセンティブで酪農家の興味を引いている形が多いように思われる。酪農家がどこの乳業会社と契約するのかが注目されるが、全体的には乳価は上昇基調にあり、酪農家の生産意欲も回復してくると思われ、生乳生産量の増加が期待される。各乳業会社ともに製造設備の増強に投資を行っているところが多く、追加での集乳量が必要となっている為、豪州全体の生乳生産量の増加が期待される。

(1豪ドル=82 円換算)

- 豪州ビクトリア(VIC)州の降雨量 2018年5月27日(mm) -

	5月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	23.6	24.2	44.7	-47.2%
Warmambool (西部)	87.8	65.2	71.3	+23.1%
Bairnsdale (東部)	34.4	14.4	45.2	-23.9%
Albury (北東部)	20.6	45.4	50.9	-59.5%
Melbourne	59.8	57.0	55.7	+7.4%

- ニュージーランド(NZ)主要都市の降雨量、2018年4月(mm) -

	4月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	99.5	338.4	104.4	-4.7%
Taranaki (北島)	59.0	207.0	90.0	-34.4%
North Canterbury (南島)	118.8	156.6	47.0	+152.8%
Southland (南島)	160.5	48.8	80.0	+100.6%

— 豪州生乳生産量 —

単位:百万リットル

	2018年4月の生乳生産量(前年同月比)	2017年7月～累計(前年同時期比)
NSW	86.6 (+2.3%)	958.4 (+0.9%)
Victoria	383.7 (+3.2%)	5,123.4 (+3.7%)
Queensland	28.4 (-9.1%)	333.7 (-5.6%)
South Australia	42.1 (+8.6%)	445.1 (+8.2%)
Western Australia	30.3 (+1.5%)	321.4 (+1.3%)
Tasmania	79.5 (+19.6%)	787.2 (+7.8%)
Australia	650.6 (+4.5%)	7,969.3 (+3.5%)

— VIC州の地域別生乳生産量 —

単位:百万リットル

	2018年4月の生乳生産量(前年同月比)	2017年7月～累計(前年同時期比)
東部	135.4 (+1.1%)	1,783.4 (+3.4%)
北部	139.1 (+11.1%)	1,599.5 (+8.7%)
西部	109.2 (-3.1%)	1,740.4 (-0.3%)
ビクトリア州全体	383.7 (+3.2%)	5,123.4 (+3.7%)

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd 松本>

<米国駐在員情報>

— 3月の米国産乳製品の輸出量 —

米国産脱脂粉乳(NDM)の輸出が好調を維持している。価格が安値圏で推移していることが主な要因。脱脂粉乳(NDM)は2017年11月に、11月単月における過去最高の輸出量を記録。その後、2018年3月まで毎月、月毎輸出量の去最高を更新している。3月の脱脂粉乳(NDM)の輸出量は66,466トンであった。前月の輸出量と比べると僅かながら減少となったが、前年同月と比べると37.2%増となり、前年比較の増加率としては2016年10月以来最高となった。特にメキシコへの輸出量が増加し、39.4%増であった。好調な輸出により脱脂粉乳(NDM)在庫量も僅かではあるが減少した。米国農務省(USDA)によると3月末時点の在庫量は前月より僅かに減少し、13万5,286トンとなった。USDAは当初、3月末の在庫量は前月末より7.9%減少すると見込んでいたが実際は0.1%減となった。在庫量はまだ重い状態が続いており、前年と比べ20.9%多い水準となっている。輸出向け脱脂粉乳(NDM)の平均価格は2月に12年ぶりに安値を更新したが、3月に僅かに反発した。脱脂粉乳(NDM)に対する需要は強い状態が続いているが、供給にも余裕がある状況となっており、今後価格が急激に上昇することは考え難いとの見方が強い。その他の乳製品輸出量も増加した。3月のチーズ輸出量は3万3,868トンで昨年同月比8.7%増。第1四半期としては2004年以降最高の輸出量となった。バターは前年同月と比べ2倍となる2,452トンであった。ホエイパウダーは2万1,792トンで、前年同月比26%増、2014年5月以降最高の輸出量となった。

- CWT 輸出プログラム変更検討 -

National Milk Producers Federation(全米酪農生産者連盟)/NMPF が Cooperatives Working Together (酪農協共同基金/CWT)の輸出プログラムについて、現行プログラムより効果的かつ酪農家への還元を最大限なものにする目的で、新たなプログラムの策定を模索している。

NMPF によると CWT は 2003 年の設立以来、米国乳製品輸出において非常に重要な役割を果たしている。現在までに 40 万 8,600 トンの乳製品輸出(生乳換算 503 万 9,400 トン)に関わり、アメリカンタイプチーズ総輸出量の内 80%、バター総輸出の内 23%は CWT の補助金によるものとなっている。米国国内における乳製品市場の成長率は世界と比較すると緩やかな成長率となっている。輸出も大幅には増加していない。過去 3~4 年において、全米の生乳生産量に占める輸出向け割合は約 14%と横這い状態が続いている。しかし、発展途上国への乳製品輸出の増加余地はまだある状況。乳製品輸出において米国の競合国である欧州やニュージーランド(NZ)は輸出量拡大への準備を進めており、米国においても輸出プログラムの再構築が必要と NMPF はしている。CWT の輸出プログラムは 3 年毎に見直しが行われており、現行のプログラムは 2018 年まで継続することが決まっている。2019 年以降については 2018 年 6 月中旬に予定されている委員会によって決定される見通しとなっている。今後の CWT の方向性として考えられる要点は下記の通り。

・CWT 輸出補助金付与の対象品目及び対象メーカーの拡大

現在輸出補助金の対象品目となっているアメリカンタイプチーズ(チェダー、モントレージャック、ゴータ、スイスタイプ、コルビー)に加え、クリームチーズ、ナチュラルチーズブレンズ(マーブルジャック/コルビージャック)も対象品目に加える。更にプロセスチーズも検討。対象メーカーについても拡大予定。

・補助金対象月の拡大

長期契約を可能とするため、補助金の対象船積み期間を現行の 3 ヶ月先から 6 ヶ月先までに拡大。

・各国ユーザー(主に小売業やフードサービス)と長期的且つ安定的な取引を行なう為に必要なマーケティングスキームの構築。・輸出相手国やユーザーの価格及び品質に対する要求に対応した商品開発の為の情報収集と分析。

・US Dairy Export Council(USDEC) や Dairy Management Inc.(DMI)との協力強化

既に USDEC や DMI と協力関係にあるが、新規市場を開拓できるような新たな関係強化。

- カナダ 生乳生産量 -

カナダにおける生乳生産は非常に好調な状態を維持している。2015 年より毎年わたって、対前年比で増加を続けており、2015 年は 4.5%増、2016 年は 3.6%増、2017 年は 6.1%増となった。生乳生産量は既に国内需要を上回っており、6.1%という増加率は、1931 年以來の増加率となった。2018 年に入っても対前年比増加の傾向は続いており、1 月の生乳生産量は前年同月比 5.4%増であった。

数年前、カナダは深刻なバター不足に陥っていたが、生乳生産量が大きく増加した現在は状況が大きく異なっている。生乳生産量増加分の多くはバター生産に使用され、結果的にバター生産の副産物である脱脂粉乳の在庫を大量に抱えることになったものの、国内需要を賅うには十分なバター生産量となった。現在はバター輸入量を減少させ、脱脂粉乳を輸出向けに積極販売することで、現状の生乳生産量を処理することができており、今後の生乳生産については、穏やかに増加していくことが好ましいとされている。

バター輸入量は 2016 年が最も多く、2 万 2,200 トンの輸入量であった。2017 年の輸入量は 2016 年と比べ約 27%減の 1 万 6,162 トンとなった。

カナダでは生乳生産量の増加が酪農家の所得増加に繋がっており、より多くの生乳を生産しようと土地価格が上昇している。カナダで最も酪農が盛んなケベック州では 2017 年に農地価格が 8.2%上昇し、オンタリオ州においては 9.4%上昇した。

- 4月の主要23州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表による4月の主要23州の生乳生産量は785万4,200トンで前年同月比0.7%増となった。先月発表の3月の生乳生産量は前年同月比1.4%増の808万1,200トンに修正された。

主要23州における3月の一頭当たりの平均搾乳量は約901キロで前年同月を約5キロ上回った。この搾乳量は統計を取り始めた2003年以来4月単月の数値としては過去最高となった。

主要23州における3月の平均乳牛頭数は874万頭と発表され、前年同月比1万4,000頭増、前月比2,000頭減となった。

-2018年4月主要州別生乳生産量(前年同月比)-

カリフォルニア州	1,568,570トン	+0.4%	(+6,810トン)
ウィスコンシン州	1,145,442トン	-0.6%	(-7,264トン)
ニューヨーク州	562,052トン	-2.4%	(-13,620トン)
アイダホ州	560,236トン	+3.5%	(+19,068トン)
テキサス州	498,038トン	+7.0%	(+32,688トン)
ミシガン州	424,490トン	-1.4%	(-5,902トン)
ペンシルバニア州	423,128トン	-1.7%	(-7,264トン)
ミネソタ州	369,102トン	-2.2%	(-8,172トン)
ニューメキシコ州	328,242トン	+2.6%	(+8,172トン)
ワシントン州	254,240トン	+3.1%	(+7,718トン)

- 2018年3月米国産主要乳製品生産量 -

バター	84,444トン	前年同月比 +4.8%	前月比 +9.1%
チーズ	499,400トン	前年同月比 +2.7%	前月比 +11.6%
（うちアメリカンタイプチーズ）	198,398トン	前年同月比 +1.7%	前月比 +10.0%
（うちイタリアンタイプチーズ）	218,828トン	前年同月比 +2.5%	前月比 +12.9%
NFDM(食用)	81,836トン	前年同月比 +12.0%	前月比 +14.2%
SMP	18,565トン	前年同月比 -22.2%	前月比 +8.8%
ホエイパウダー	39,963トン	前年同月比 +1.5%	前月比 -1.8%
WPC	19,788トン	前年同月比 +2.9%	前月比 +10.7%
乳糖(食用、餌用)	44,893トン	前年同月比 +3.7%	前月比 +14.6%

- 2018年3月末米国産主要乳製品在庫量 -

バター	124,193トン	前年同月比 ±0%	前月比 +3.0%
チーズ	602,744トン	前年同月比 +5%	前月比 +1.0%
（うちアメリカンタイプチーズ）	349,245トン	前年同月比 ±0%	前月比 +1.0%
NFDM(食用)	135,286トン	前年同月比 +20.9%	前月比 -0.1%
ホエイパウダー	33,919トン	前年同月比 -3.5%	前月比 -15.4%
WPC	35,433トン	前年同月比 +25.4%	前月比 -3.4%
乳糖(食用、餌用)	52,098トン	前年同月比 -7.8%	前月比 -2.0%

- 2018年4月末バター、チーズ在庫量 -

バター	139,532トン	前年同月比 +5.15%	前月比 +12.19%
チーズ	611,433トン	前年同月比 +3.33%	前月比 +1.67%
(うちアメリカンタイプチーズ)	354,792トン	前年同月比 -2.88%	前月比 +1.94%

＜ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤、土屋＞

＜欧州駐在員情報＞

- EU 政府 脱脂粉乳介入在庫売り渡し・買い入れ状況 -

5月15日に行われた脱脂粉乳介入在庫の放出入札では、入札対象数量115,112トンに対して124,360トンの応札があり、過去最高の41,958トンが落札となった。落札最低価格は前回のEUR1,051/MTよりEUR104/MT値上がりし、EUR1,155/MTであった。買入札では、詳細は公表されていないものの落札は無かった。今回の放出入札の結果、介入在庫は約30万トンとなっている。

次回入札は6月19日で、対象数量は144,847トンを予定している。

EU 介入在庫放出入札結果 (単位:MT)

入札日	入札対象数量	応札数量	落札数量	応札価格	最低落札価格
2017年5月16日	21,962	240	0	EUR1,380~1,634	-
2017年6月20日	21,962	1,340	100	EUR1,380~1,850	EUR1,850
2017年7月18日	21,862	120	0	EUR1,680~1,750	-
2017年9月19日	21,862	40	0	EUR1,593~1,593	-
2017年10月17日	21,821	1,790	40	EUR1,201~1,440	EUR1,440
2017年11月21日	21,780	33,195	40	EUR 800~1,390	EUR1,390
2017年12月12日	21,740	13,472	0	EUR 801~1,300	-
2018年1月16日	101,061	25,764	1,864	EUR 700~1,350	EUR1,190
2018年2月20日	99,196	35,465	4,337	EUR 650~1,270	EUR1,110
2018年3月20日	95,079	37,712	4,127	EUR 501~1,121	EUR1,050
2018年4月17日	90,952	91,855	24,066	EUR 501~1,705	EUR1,051
2018年5月15日	115,112	124,360	41,958	EUR 500~1,277	EUR1,155

- EU 主要28ヶ国 生乳・乳製品生産量、輸出量 -

2018年1~3月における、EU主要28ヶ国の生乳生産量は前年同期比2.3%増となる3,887万トンであった。主要乳製品生産量は、バターが55.3万トン(前年同期比1.8%増)、チーズが233.9万トン(前年同期比2.1%増)、脱脂粉乳が39万トン(前年同期比7.4%増)、飲用乳が755.2万トン(前年同期比1.4減)、となった。

主要乳製品輸出量は、バターが5万トン(前年同期比13%増)、チーズが20.4万トン(前年同期比1.3%増)、脱脂粉乳が20.7万トン(前年同期比8.1%増)、ホエイパウダーが17.3万トン(前年同期比9.3%増)、全粉乳が9.4万トン(前年同期比12.2%減)、となった。

飲用乳の生産量については前年同期比落ち込んだが、これは3月下旬でも降雪を記録するなど春の到来が遅れ消費量が落ち込んだことが要因の一つとなっていると思われる。

＜アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V. 吉田＞

お問い合わせ先:

出典:
AGRA EUROPE 各誌
Dairy Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weeklytimes
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。